

伝清盛塚

伝清盛塚は、1184年に平清盛（1118～1181）への感謝の気持ちを込めて、地元の村人たちが建立したものである。清盛は、1165年に音戸の瀬戸用水路を開通させた発掘調査を主導したとされている。倉橋島と本土を隔てるこの水路は、何世紀にもわたって重要な水路として機能してきた。しかし、古代の記録や最近の地質学的な研究では、この水路は自然にできたものであり、人工的なものではないことがわかっている。

伝説によると、清盛は一日の工事で音戸の瀬戸用水路を作ったと言われている。清盛は、部下が作業を終えるまでの時間を稼ぐために、扇子を使って日が沈まないようにしたと言われている。清盛の伝説的な行動はこれに限らず、当時、大規模な水道工事の成功を祈願するために、人柱の形をした生け贄を供え、工事現場やその近くに生き埋めにする習慣があった。伝説によると、清盛はこの習慣を捨て、お経の一文字を刻んだ石を供えて埋めたと言われている。伝清盛塚もまた、この人道主義を記念したものである。

伝清盛塚は、倉橋島東岸の岩礁の上に建てられた石造物で、音戸の瀬戸用水路に面している。その中央にはお経を納めたと思われる供養塔が建っている。この塔は室町時代（1336～1573）に建立されたものである。隣接する黒松は三代目の松で、元の松は自然に枯れ 1719 年に植え替えられ、枯れた後、1991 年に現在の松に植え替えられた。伝清盛塚は、1951 年に県指定有形

文化財に指定されている。

墳丘は、昭和 36 年に完成した音戸大橋の近くにあり、本土と倉橋島を結んでいる。真っ赤な橋は

高架化されており、1000 トン級の船でも音戸瀬戸水路を通行できるようになっている。